

出土人骨から試料採取

古代出雲人 ルーツに迫る——

古代出雲人のDNAを解析してルーツに迫るため、関東に住む出雲市出身者らでつくる「東京いずもふるさと会」（事務局・東京都港区）は4日、県埋蔵文化財調査センター（松江市打出町）で、県内の遺跡から出土した人骨から試料となる歯を採取した。今後、DNAを抽出して解析する。【山田英之】

「ふるさと会」DNA解析へ

「ふるさと会」の岡垣克 評価する。神沢研究員も「西
則会長らに、国立遺伝学研 日本の縄文のデータはまだ
究所の斎藤成也教授、国立 蓄積できていない」と、調
科学博物館の神沢秀明研究 査の意義を語った。
員も同行した。歯を採取し 出雲弥生の森博物館（出
たのは県埋蔵文化財調査セ 雲市大津町）でもこの日、
ンターが所蔵する小浜洞穴 市内の猪目洞窟遺跡から出
遺跡（松江市美保関町）か 土した古墳時代とみられる
ら出土した人骨。年代は縄 人骨の一部を採取した。
文時代晚期ごろで、沿岸部 「ふるさと会」は来年11
で育った20代前半ぐらいの 月に東京と出雲で研究報告
男性とみられる。 会を予定している。研究を
齋藤教授は「西日本は縄 進めるため9月から始めた
文の遺跡が多くない。特に ネット上の資金調達「クラ
中国・四国地方で縄文文化 ウドファンディング」では、
が続いていた頃の人骨のD 目標の200万円を超える
NA分析はとても貴重」と 額が集まった。



①小浜洞穴遺跡から出土した人骨から試料を採取する神沢秀明研究員（左）②小浜洞穴遺跡から出土した人骨。良好な状態で歯が残っている。いずれも松江市の県埋蔵文化財調査センターで